



園芸資材業務に携わって

広本 直樹 JA全農 生産資材部 資材課

私はJA全農に入会後、園芸資材関係の技術担当として試験・研究・講習業務を中心に、携わってきました。今回は、その内容の一部についてご紹介いたします。

○製品の開発、試験、品質検査、現地対応

全農では様々な資材を取り扱っていますが、中でもJAマークや全農マークが貼付された被覆資材に関しては、JISに定める試験法に対応可能な設備・機器を取り揃え、必要に応じて初期性能から耐候性まで機能性を含めた試験を行い、全農品質管理基準に基づいた品質確認試験を実施しています。生産者に安心して資材を使用していただくために、今後も継続して取り組んでまいります。

○生分解性マルチ

生分解性マルチについては、1995年から総合的な性能調査試験を実施しています。初期物性強度は、農ポリJIS規格(JISK6781)に則った試験を行い、展張時の特性や機械適応性調査と併せて実施してきました。また、栽培適応性試験においては、ポリマルチを用いた慣行栽培と比較した生育・収量特性の調査と、土中・表面の分解度合いを定点観測し、実用性の評価を行ってきました。1998年からは堆肥抽出液を用いた生分解度測定方法を研究し、2000年からは呼吸量測定器を用いて生分解度を測定しています。現在、取扱い製品・試作品について、これらの試験方法を用いて性能を調査し、生産者へのより良い資材提供に活用しています。

○省エネ対策の取組み

平成19年の原油高騰に際し、全農では対策本部を設置し省エネ対策に取り組んできました。

その取組みの一つとして、全国でのヒートポンプ導入実証試験を実施しました。全国18ヶ所のJAグループおよび生産者と共同で、省エネ効果を中心とした試験・調査を実施してきました。現地生産者からは効果に対する喜びの意見、厳しい意見をいただき、作物・地域別に様々な所感を得ることができました。また、導入時の効果診断方法についても構築し、導入相談対応をはかってきました。現在は、これら得られた情報を全国需要地への導入推進に活用しています。

○講習会の開催、講師対応

全農生産資材部では、初任者を対象とした園芸資材講習会を毎年5～6月に開催し、座学・実習を通じて園芸資材の基礎知識習得を進めています。被覆資材、園芸施設、カーテンや暖房機等の環境制御資材の座学に加え、暖房機の操作・メンテナンス、パイプハウスの建て方等の実習を実施しています。その他、多岐に渡る園芸資材の名称や役割だけでなく、姿形や使用方法まで習得することで、生産者からの相談に答えていただけるように現地研修会等の開催やサポートに努めています。



最近では、太陽光発電の園芸施設利用に関する実証試験も開始しており、実用性検討と情報収集に努めております。また、研究支援事業委員の委嘱や研究事業への共同申請等、各種事業においても関係各位との連携は必要不可欠です。今後、施設園芸技術指導士同期を中心に、情報交換を積極的に行い、園芸資材事業の発展に少しでも貢献していきたいと考えております。